

「公共事業コスト構造改善プログラム」

【 施策名： I 計画・設計・施工の最適化 【1】 計画・設計の見直し 施策7 】

膜分離活性汚泥法の導入（新技術の活用）

概要： 水処理に新技術を用いて、従来の活性汚泥法の処理水質以上の水質（高度処理）と施設のコンパクト化を実現

（従来）

高度処理化に広い敷地面積が必要

⇒

（新）

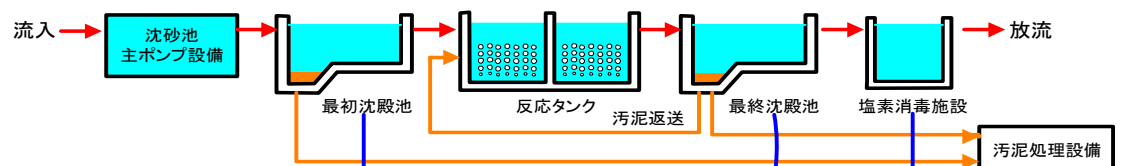
従来よりも狭い敷地面積で可能

効果：

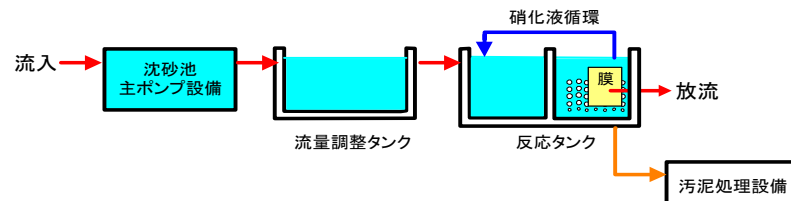
・通常、高度処理には広い敷地面積が必要であるが、新技術（膜分離活性汚泥法）を採用することで、沈殿池、消毒施設の省略が可能となり、施設のコンパクト化、敷地面積の縮小が可能となるため、コスト改善となる。

■日本下水道事業団全体で建設費を、**3,029百万円**から**2,729百万円**に改善。
（改善額 **300百万円**、改善率 **約10%**）

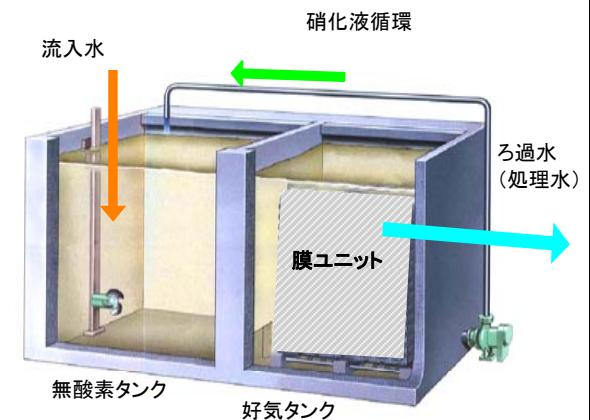
従来の活性汚泥法



膜分離活性汚泥法



施設不要
用地がコンパクト化！



膜分離活性汚泥法